

2005年9月17日 駒澤大学玉川グラウンド
練習試合(40分×3本)

駒澤大学×清水商業高校

1本目 0-0

2本目 1-0 得点者:鈴木亮

3本目 2-1 得点者:原、谷本

【メンバー】

1本目 GK:牧野利昭、DF:筑城和人、廣井友信、阿部琢久哉、塚本泰史、MF:島田祐輝(東平大佑)、宮崎大志郎、桑原靖、鈴木亮平、FW:原一樹、赤嶺真吾

2本目 GK:牧野利昭、DF:阿部琢久哉、桑原靖、廣井友信、筑城和人、MF:八角剛史、島田祐輝、笹岡新伍、鈴木亮平、FW:巻佑樹(八角剛史)、赤嶺真吾

3本目 GK:三栗寛士、DF:林昇平、高森佑太郎、志田亮輔、塚本泰史、MF:島田祐輝(最上大輝)、笹岡新伍、八角剛史(柳崎祥兵)、宮崎大志郎(谷本修)、FW:原一樹、東平大佑



相手DFを振りぬきクロスを上げる笹岡
2本目、ゴールを決めた鈴木亮。体勢を崩しながらもシュートを放ち、勝利への強い執念を見せた
(撮影:斉藤卓也)



勝つためには...

リーグ戦、前節の明大戦を大量得点で快勝し首位を走っている駒大。夏に戻ったような暑さの中、今週はリーグ戦がないため清商との練習試合が行われた。

1本目、リーグ戦でも絶対好調の活躍を見せる島田を起点とし、左サイドから攻撃を仕掛ける。高校生相手に体の大きさから競り合いに勝ちダイレクトでパスを繋ぐ。徹底したサイド攻撃からゴール前まではいくもの相

手の堅いDFに跳ね返えされ、なかなかシュートを打つ事が出来ない。結局、決定力を欠き得点を奪えずスコアレスドロー。2本目は開始2分、中盤で繋ぎゴール前にこぼれたボールを鈴木亮が体勢を崩しながらゴールへ押し込む。前からプレスをかけ高い位置でボールを奪いサイド攻撃やロングボールからチャンスを作る。しかし、カウターからシュートを打たれる場面も見られ追加点を奪つ事は出来なかった。3本目、11分に相手の個人技でDFが抜かれ豪快なゴールを許してしまう。高校生相手に負けられない駒大は13分、相手DFのクリアミスで、26分にも相手のミスをつき谷本がゴール。試合には勝つたものの、駒大の攻撃の形からゴールは決められなかった。全体を通して相手DFの堅い守備に阻まれ決定力を欠いた。

優勝するためにには試合に勝つこと。勝つためにはゴールが絶対に必要。ゴールに対する執念で、どんな鉄壁DFからでもゴールを奪う。そんな駒大の攻撃を今後のリーグ戦で見せて欲しい。(原田 麻里)

駒澤大学×西武台高校

2005年9月18日 駒澤大学玉川グラウンド
練習試合(40分×4本)



シュートを放つ赤嶺。巻の存在により、より赤嶺のプレーが生きていた(永田博義撮影)



1本目 2-0 得点者:赤嶺2
2本目 4-0 得点者:赤尾2、菊地、田谷
3本目 3-0 得点者:谷本、山下、小野里
4本目 3-1 得点者:小林2、椿原

【メンバー】

1本目 GK:三栗寛士、DF:筑城和人、阿部琢久哉、廣井友信、塚本泰史、MF:島田祐輝、笹岡新伍(巻 佑樹)、桑原靖、鈴木亮平、FW:赤嶺真吾、原一樹

2本目 GK:三栗寛士、DF:石井晃一、沼守宏樹、菊地光将、安藤 謙、MF:新川真之介、宮崎大志郎、八角剛史、赤尾直和、FW:印出昌史、田谷高浩

3本目 GK:山内達夫、DF:鳥井勇作、奥野拓也、五上直也、湯川貴嗣、MF:最上大輝、小野里銀児、柳崎祥兵、谷本 修、FW:山下真太郎、東平大佑

4本目 GK:山内達夫、DF:浅野浩一、高森佑太郎、志田亮輔、武田憲明、MF:加藤正樹、新聞健人、隅田 翔、椿原徹也、FW:高崎寛之、小林竜樹

2得点を上げた赤尾。最近のリーグ戦ではベンチに回ることの多い赤尾だがこの日のような積極性がリーグ戦で見られるのが楽しみだ

練習試合の意義

まだ夏の暑さが残るこの時期の練習試合、駒大はリーグ戦の勢いそのままに西武台高を相手にほぼグラウンド半分まで試合をする圧倒的な試合を展開した。

高い位置からプレスを仕掛け、サイドから崩す駒大のサッカーが機能し、左からは今絶対好調の島田、右からは高いテクニックを誇る笹岡が高いパフォーマンスをみせ、22分の赤嶺のゴールを生んだ。決められるところで得点を挙げるためには途中で笹岡に変わって入った巻の存在感は大きかった。ターゲットとなる人物が増えたため相手DFは赤嶺に対してマークが手薄になってしまい27分、原からのロングスローの際赤嶺がノーマークとなりそのままフリーで頭で合わせてフィニッシュ。これはまさに巻の間接的なアシストといえるだろう。

高校生と大学生の違いがあり、やはり西武台高は1本目では駒大の速いプレス、体の当たりなどに戸惑いミスを連発させていく。だが、2本目、3本目とこなすにつれ、目に見えない形で順応していき、ワンランク上のサッカーにみるみる進化していった。練習試合は前の試合の課題を克服し、レベルアップを図るうってつけの場である。

2本目、3本目と進むたびに成長を遂げていく高校生に負けることなく練習試合の目的を果たせたのだろうか。全ては次節のゲームで明らかになる。

(香取 真人)

ボールに必死に喰らい付く田谷

